

関東一の あばれみこし

熊谷市葛和田地区は、利根川の河岸として賑わった地です。利根川のすぐ南、神明神社に合祀される大杉神社の夏祭りは、江戸時代末から続く、利根川とともに生活してきた人々の祭りで、勇壮な「あばれみこし」として多くの観客を集めます。

■由来

祭りの由来についての記録は見当たりませんが、地元では次のような言い伝えが残ります。

あるとき、葛和田村の与助という腕利きの船頭が百石船に乗り、利根川を江戸に向かい出航しました。

与助の船は暴風風にあい、船は今にも沈まばかりでした。思わず「南無大杉大明神」と叫ぶと白髪、白装束の老人が白い雲に乗って現れ、与助の船を片手でつかみ静かな場所まで運んでくれました。

無事に航行を終え村に帰った与助は、この出来事を村人たちに話したところ、水路の安全祈願のため大杉様のみこしを造ることになりました。

さらに、与助が暴風雨にもまれていたとき助けてもらった恩を忘れないため、年に一度お祭りをすることになり、暴風雨にちなんでみこしをもみにもんで村内を練りまわり、さらに利根川の中でもはげしくもみあうようになったといひます。



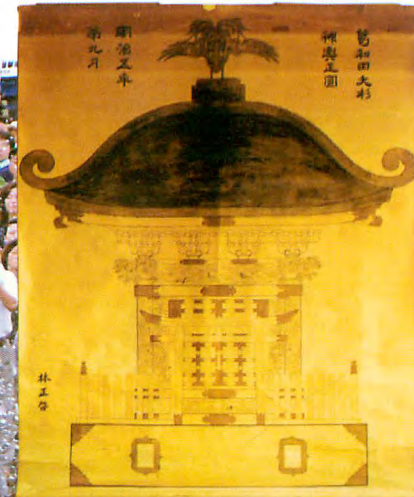
■みこしの渡御

祭りは、7月最後の日曜日、熊谷市葛和田、大野、俵瀬地区の氏子が協力して行います。

夜明け前に葛和田の神明神社を出発し、各家々をまわったみこしは、お昼頃大野の稲荷神社に到着。みこしの屋根の上で力比べの神事が行われます。ふたたび出発したみこしは、2時ごろ利根川に到着、大人の背が立つ深さまで運ばれ、お囃子を載せた船が水上に待機する中、クライマックスを迎えます。



▲利根川に入り激しく「もみあう」



▲明治5年作成のみこし図

■祭りのクライマックス

川に入ったみこしの上に、かつぎ手がかけ声とともに威勢良く取りつき、次から次へとよじ登ります。このとき、みこしが水で濡れずべる上に、「我先に!」と競って登るため、登る先から水の中に頭から落ちていく者が続出しますが、落ちた者は次々と再びみこしに取りつきます。このはげしい「もみあい」が1時間ほど続きます。

「もみあい」が終わると、河原でしばしもみあった後、俵瀬の稲荷神社に向かい、出発の神明神社に戻り、最後の力比べが行われます。

▼大杉神社(葛和田神明神社境内)



案内図・周辺のみどころ

■グライダー滑空場

日本一の発着回数を誇ります。周辺上空にはグライダーが優雅に舞います。



周辺地図



▲渡船場

葛和田と群馬県千代田町を結ぶ渡し舟が、今も運航されます。



▲荻野吟子記念館

日本第1号の公許女医荻野吟子の生誕地に建てられた記念館。吟子の波乱の生涯を学ぶことができます。

問い合わせ

〒360-8601 熊谷市宮町二丁目47番地1
熊谷市教育委員会 社会教育課
TEL 048-524-1111 (代表)

熊谷市指定無形民俗文化財

葛和田のあばれみこし

大杉神社祭礼行事

